長野県総合教育センター通信

しののめ

2023/2/20
（令和５年２月号）
第166号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263)53-8802　FAX (0263)51-1290　E-mail：*kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp*

目　次

「調査研究事業の報告について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1
「調査研究事業の報告（調査研究Aチーム）」・・・・・・・・・・・・ p.2,3
「調査研究事業の報告（調査研究Bチーム）」・・・・・・・・・・・・ p.4

調査研究事業の報告について

しののめ166号（２月号）・しののめ167号（３月号）では本年度の総合教育センターにおける調査研究事業の成果をお伝えします。

３月末には、関連する資料等もセンターホームページに掲載します。是非ご覧いただき、参考・活用していただければ幸いです。

教育センターホームページ(URL)：www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp

調査研究報告1年目〔令和4･5年度　継続研究〕　　【調査研究Ａチーム】

研究テーマ

「教師の ICT 活用指導力の向上」につなげるための学校マネジメント
～「チーム学校」による協働的な学びへの支援のあり方～

研究の目的

探究的な学びの重要性が高まり、個別最適な学びと協働的な学びを通して、いかに物事の本質的な部分で深い学びが行われるかが問われる中で、各校園では様々な取り組みが進んでいる。その際、ＩＣＴを効果的に活用することで、児童生徒の充実した学びや教職員の負担軽減につながる実践も見られるようになってきている。

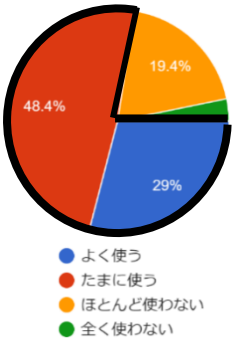
一方、GIGA スクール構想の実施により、教育現場では児童生徒の一人一台端末の導入が進められたが、教員のＩＣＴ活用においては、学校あるいは個人によって差があり、「チーム学校」としてＩＣＴの積極的な活用を推進する上での悩みも多いと聞く。

本研究では、学校現場の教職員からの声を聞き、ていねいに整理分析し、学校全体の組織力、教員同士のつながりの強化に焦点をあて、ＩＣＴをより効果的に活用しながら学校目標及び教員個々の願いを実現していくための支援の方向性を探っていく。

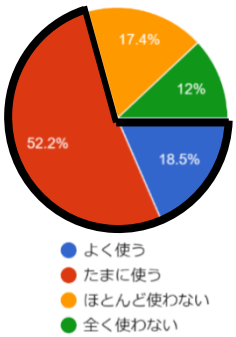
1　クラウド活用の実態調査アンケートから見えてきた課題

（1）7割超の先生方がクラウドを活用して教育活動を実施！！

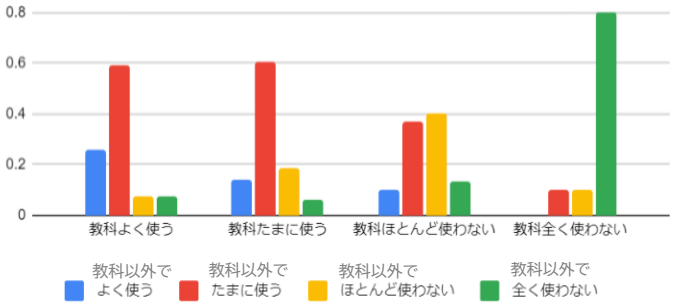
授業におけるクラウド利用



授業以外におけるクラウド利用



教科と教科以外のクラウド使用（相関割合）



〔 R4 総セ ICT 関連の研修講座 163 名へアンケート 〕

授業において、クラウドを「よく使う」「たまに使う」と答えた人の割合が全体の８割。授業以外でクラウドを「よく使う」「たまに使う」と答えた人の割合が全体の７割。

また、右上の相関グラフから、教科においてクラウドをよく活用しているクラスは、教科以外での活用割合も高く、教科で全く使わないと、教科以外でも使われない現状が見えてくる。どちらからでも、活用の効果が実感できれば、自然とあらゆる場面での活用に発展していく可能性が高いといえる。

（2）ICTを活用する上での先生方の悩みと今後の課題〔R4　ICT 研修講座受講者アンケートより 〕

◆自分が使えない。知識不足。慣れていない。浸透していない。共有の意味が分からない。
◆教師間の技術格差。使い方を学べる機会がない。◆生徒間の格差。◆トラブル時の対応。
◆効果的な活用を見据えた教材研究・アイデアの欠如。◆教材の準備に時間がかかる。
◆せっかくクラウドで共有ができるツールを使っているのに、職場内、地域内、国内などで教材の共有などがあまり進まない。
◆学年や学校で足並みを揃えた授業や活動に取り組みづらい。◆校内の研修時間が確保しにくい。
◆「使えない」先生と「使わない」先生がおり、特に使わない先生に、どのようにして使っていただくかが難しい。担当ばかりが進んでしまってもだめな気がして、いい方法を模索しているところ。

◇一台端末は導入されたが、授業や学校生活の中で、一人で ICT と向き合うことに大きな壁を感じている職員が多い。**一人で何とかしようとしている先生が多い**ため、やりたいことがあっても実現に至るまでの知識や技能が伴わずにあきらめてしまっている。

◇ICT の活用に進んで取り組んでいる学級とそうでない学級の差がそのまま、児童生徒の ICT 利用の差につながっている。**学校内、学年内等における情報共有が希薄になっている**。

◇**ICT やクラウドの魅力を実感できていない**。さらに解決するための**研修が実現できていない**。

2「チーム学校」力を高めるために　～ICTを活用する魅力やビジョンを共有～

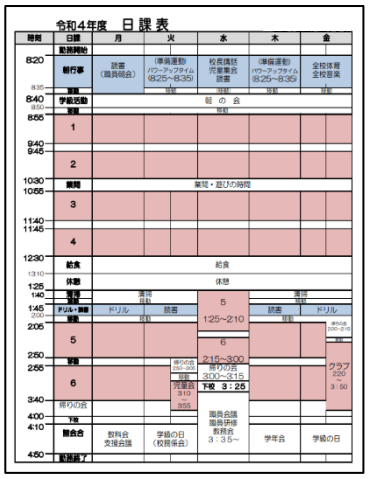
（1）研究の方向

学校マネジメントの視点から、学校組織における情報共有や相互協力がよりよく機能するための方法を、ＩＣＴ活用の可能性を加味して全職員で考えることで、ＩＣＴ（クラウド）が効果的であることを実感し導入が促進されたり、教師のＩＣＴ活用指導力が向上したりするとともに、**「チーム学校」**を実現するための場の設定を研究する。

（2）日課表やグランドデザインから ICT の可能性を探る〔総セワークショップから〕

総セ所員による合同ワークショップを行い、共通のグランドデザインや日課表をもとに、学校で大事にしている取組を、ＩＣＴ(クラウド)を活用することでより活性化させる方法を検討しました。

共同編集で各自の考えを入力し、情報交換し、取組の難易度や取組を実行するための具体的な方法等も議論することで、ＩＣＴ活用のイメージが見えてきました。



入力者	グランドデザイン・日課表から着目した内容・項目	みんなで実践していけそうな「ICT（クラウド）を活用した取組」	難易度 1 2 3
（例）上條	学習の見通しや振り返りの場面を大切にする	その日、どこか１授業は授業の最後に授業のふりかえりをFormsを使って入力する時間を設ける。	
五味	朝の会の係からの連絡や教師からの連絡	連絡を入力して、スクリーンに映しておく。時短にもなるし、朝の連絡が文字情報として残り見返すことができる。	1
倉田	自ら考え、学びあう時間を確保するために	授業前にその日に学習する内容のスライドや、主となる学びに関する説明の動画などをクラウドにあげておき、予習できるようにしておき、自分のペースで学ぶことができる工夫をする。そのうえで意見交換（友達の考えを参考にするのも含め）できるようにクラウドアプリを活用する。	3
野口	学習の見通しや振り返りの場面を大切にする 授業のユニバーサルデザイン化	振り返る際に視点を設ける。友だちの振り返りを共有できるようにする。（復習に役立てる） ノート記入	2
塩島	職員会議での協議・連絡事項の情報共有	事前にクラウド上に会議資料を保存しておき、会議当日は全職員がタブレットを持参する。また連絡事項で済むことは特に話し合わない。	2
五味	ICT機器の管理係を作る	子どもが、「私たちの学校を作っているんだ」という意識が芽生えるように、ICT機器を自分たちが管理して学校をよくしていく環境づくり。地域や学校を好きになれる学校を自分たちで作る。	2
倉田	授業のユニバーサルデザイン化に向けて	持ち物や課題は、視覚的に示してクラスルーム等で連絡する。その日の学習の流れが分かるように、流れや主に使用する教材、考え方のヒント、前時の学習のまとめ等をいつでも見られるようにクラウドに保存。興味関心を引き付けられるような情報の提供、クイズやアンケートなど参加型で意見交換し共有化できるようアプリを活用。	1 ～ 3
野口	児童会活動や集会 異学年集団による多様な考えに触れられる授業	クラウドアンケートによる全校児童の意見収集	1
塩島	授業公開	授業公開の様子をyoutubeでライブ配信しながら録画しておく。当日公開授業に参加できなかった先生でも後日みられる。	2

グループで話をしていると、自分一人では考えつかないような ICT の活用方法が共有できるし、みんなで考えるから ICT 担当だけが苦労することがなくなるかも！これなら「チーム学校」の活性化にもつながりそう！

アイデアを出すだけじゃなくて、具体的にどうやったら実現できそうかまで話すと、ICT が苦手な私でも「あっ、それならあの授業でもできそう」ってイメージわく！

（3）お知らせ〔上記の内容を盛り込んだ研修を以下のように計画します。是非ご参加ください。〕

令和５年度
新規講座の開設

「学校組織マネジメント応用Ⅲ」
～ICT 活用と学校マネジメント～

期日　令和５年６月 30 日（金）　在勤校等によるオンライン　〔定員なし〕
対象　現代的な諸課題への対応講座　各校の ICT 担当、ミドルリーダー、管理職の先生方等
内容　講義演習　「教員の学びと働き方を変えるクラウド活用」
講師　信州大学学術研究院教育学系　准教授　佐藤　和紀　先生
演習　○実践事例から学ぶ（小中高）
○グランドデザインをもとに考える ICT 活用の可能性（グループでの協働演習）

「総合的な学習・探究の時間」の指導にいかすための評価について考えてみませんか

経過　昨年度までに、探究の質を高めるための学習評価について、調査研究を進めてきました。その中で、学習評価の信頼性や妥当性を確保するためにグループで協議しながら、判断基準を表にする研修を紹介しました。

研修の詳しい内容については、令和3年度調査研究報告Aをご覧ください。

目的　本年度はさらに、研修講座の受講者を対象に、同一の評価資料について協議したのち、実際に判断基準を表にしてもらうことで、指導にいかすための評価のあり方を明らかにすることとしました。

複数の評価者で児童生徒の学びを評価し、協議する

①決めだした観点に基づいて、児童生徒の資料（レポートや作品、論述、映像）などをもとにして評価する。

②各資料を5～1点で採点する。

まとめ方について採点した例です

評価資料	評価者氏名	採点	特徴や採点理由
太郎さんの資料	評価者①	2	次への課題やつなげていきたいこと等まで触れられていない。発展性がなさそう。
	評価者②	3	よく調べていると思うが、まとめが２段階になってしまっている。
	評価者③	3	自分の調べてきたことを、わかりやすく説明している。
花子さんの資料	評価者①	5	テーマとまとめが一貫している。次への思いや願いも含まれている。
	評価者②	4	課題とまとめがはっきりしており、今後、自分がやりたいことまで言及している。
	評価者③	4	内容もわかりやすく、自分の考えもまとまっている。

採点表

③資料の特徴や採点理由について意見交換し、評価者の価値観や判断基準をグループで共有する。
※　共同編集アプリを用いて、意見交換すると効率的です。

同一の資料について協議することで、教師の評価観が養われ、評価の信頼性や妥当性が高まります。

・先生方と資料をもとに議論することで、総合的な学習の時間の進め方や評価のあり方について見通しがもてた。
・職員間で共通認識をもったり、各自の考え方を交換したりする機会となり、評価の信頼性や妥当性を高めることに＋α の効果があると感じた。短時間でできる上に、効果の高い研修だと思った。　（受講者の声）

判断基準の構成要素を抽出し、表にして協議する

①決めだした観点について協議し、判断基準の構成要素となるキーワードを2つ抽出し、軽重をつける。

②抽出したキーワードを右のような表に当てはめて判断基準の表を作成する。

③作成した判断基準の表をもとにしながら、児童生徒に対する指導や手立てについて検討する。

	評価　AA	評価　A	評価　B	評価　C
例	キーワードX	キーワードX	キーワードY	キーワードX
	と	は含むが	は含むが	と
	キーワードY	キーワードY	キーワードX	キーワードY
	のどちらも含む	は含まない	は含まない	のどちらも含まない
グループⅠ	課題への向き合い方	課題への向き合い方	地域とのつながり	課題への向き合い方
	と	は含むが	は含むが	
	地域とのつながり	地域とのつながり	課題への向き合い方	
	のどちらも含む	は含まない	は含まない	
グループⅡ	テーマに対する一貫性	テーマに対する一貫性	確かな根拠	テ　性
	と	は含むが	は含むが	
	確かな根拠	確かな根拠	テーマに対する一貫性	
	のどちらも含む	は含まない	は含まない	

判断基準の表

※　判断基準の表の作成は、この他にも様々な方法があります。

判断基準を表にして協議すると、目指す児童生徒の姿や育成したい資質・能力が明確になります。また、協議を通して教師自身の指導や支援が適切かどうか省察することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実やチーム学校づくりに寄与することも期待できます。

・評価にこれほどの差異があることを実感できる研修だった。各々の視点や価値観、信念は様々であり、一人の教師だけで子どもの学びを全て捉えることが無理であることを肝に銘じて指導や支援を進めることの大切さを感じた。
・感覚的な評価でなく、話し合い判断基準を表にしていくことで、学校として育てたい力が明確になると思った。
・総合的な学習の時間の単元を通して、子どもたちとどのような学びを進めるのか考えるためにも、事前に判断基準を表にしてみて、頭の中を整理した状態で授業に向かいたい。　（受講者の声）

成果・課題　「総合的な学習・探究の時間」の評価について具体的に議論し合い、共有することを通して、先生方が取り組んでいる題材や活動を多面的に見直したり、児童生徒の頑張りを見るポイントを養ったりすることにつながることが見えてきました。さらに、各校で目指す児童生徒の姿が明らかになり、指導の改善に生かせそうです。
今後は、研修講座や教職員研修会サポートでの活用が進むよう、改善していく予定です。